

市長発言要旨

【発表事項】

① （仮称）栗子山風力発電事業に係る環境影響評価準備書経済産業大臣勧告について

（仮称）栗子山風力発電事業に係る環境影響評価準備書経済産業大臣勧告については、本市及び山形県知事意見等を十分に勘案された内容となっております。特に、①イヌワシに関する調査不備、②植生に関する低評価、③残留騒音調査方法の不備、④大規模な土地の改変及び緑化の見直しの4点については、具体的な指摘がなされており、事業計画の根幹となる部分に対する極めて厳しい内容と重く受け止めています。

また、勧告にもあるように、事業計画の今後の検討に当たっては、山形県を始めとした関係地方公共団体等と調整を十分に行之、環境影響評価手続を実施することや今後の修正内容等についても地域住民等に丁寧かつ十分な説明を行うことなどが示されており、地域との共生なくしては、事業を進めることはできないものと考えています。

本市としましては、JR 東日本エネルギー開発株式会社におかれましては、勧告及び各所からの意見、本市からの全面白紙撤回の申し入れ等を踏まえて、適切な判断がなされることを期待しているところです。

② 第1回イノベーション共創ミーティングの開催について

山形県では、置賜地域の企業による付加価値の高いものづくりを進めていくため、山形県、山形大学工学部、米沢商工会議所、米沢市が連携し、新製品開発や新事業創出などイノベーションを創出するための取組を協議する連携会議（イノベーション共創ミーティング）を立ち上げることになりました。

企業独自の技術力に加え、企業間ネットワークや山形大学工学部の研究開発など置賜地域のポテンシャルを生かしながら、当連携会議がものづくりを牽引していくことで、置賜地域を若者や創業・スタートアップ希望者をはじめ、高度人材が活躍できる地域に発展させていくために、今後様々な先進的な取組を進めてまいります。

なお、年内には方向性を出したいと考えております。

③ よねざわまちづくりフォーラムの開催について

新たな総合計画の策定に向けて、よねざわまちづくりフォーラムを開催いたします。

本市では、現在、令和8年度から10年間のまちの未来や方向性を描く新たな総合計画の策定を進めています。この計画づくりを市民の皆様と一緒に進めるため、ワークショップを開催するものです。

今回のワークショップでは、全体のテーマを「これからの米沢市のまちづくりの『かてもの』づくり」としました。かつて上杉鷹山が飢饉に備えて編さんした食の手引書「かてもの」になぞらえて、本市に根付く文化などの資源や魅力を「かて」として、新たなまちづくりの「かてもの」を作ろうといった内容で行いたいと考えています。

ワークショップの内容については、お手元の資料のとおりですが、簡単に御説明いたします。

開催時期は、10月から11月にかけて全部で5回開催します。第1回目は10月5日土曜日午後2時からグランドホクヨウを会場に、高校生から一般の方まで約100名が集い、米沢の「かて」、魅力について意見を交わします。その後、第2回目から第5回目までは、各年代に分かれて、それぞれのテーマに沿って話し合いを行います。高校生であれば、「自慢したくなるまち」、若者であれば、「戻ってきたいまち、住み続けたいまち」といったように、特に若年層からの意見を取り入れることで人口流出の状況に歯止めをかけるための何かしらのヒントを得たいと考えています。

ワークショップで出された意見については、審議会や市のホームページなどで報告するとともに、新たな総合計画に反映していきます。今年度中には、基本構想の骨子をお示しし、計画全体については、来年度の12月議会へ議案として提出したいと考えています。

【回答事項】

① 8月31日に開催された「米坂線復活絆まつり」を通して得た手応え、課題等について

今回のイベントには山形県と新潟県の両知事をはじめ、沿線自治体の首長や国会議員、県議会議員の方々も数多く参加されました。まつり来場者数は公式発表では約1,500人と聞いており、イベントは大盛況でありました。

当日は私も参加してまいりましたが、本イベントは米坂線の復活に向けた地域の思いを共有する場として、米坂線の復活に向けた機運をさらに高める重要な機会となったと感じているところです。本イベントの盛り上がりは、地域住民や関係者の皆様が一丸となって米坂線の復活を願う姿勢の表れであると痛感したところであります。また、多くのメディアにも取り上げていただき、大きく報道いただきましたことも、地域社会全体に米坂線の復旧に向けた機運を醸成するための効果があったものと思っております。

一方で、米坂線の復旧には約86億円の多額の費用と、工期も約5年という長期間を要する他、復旧後の運営に関する課題等ありますが、今回のイベントで深まった米坂線の復活に対する皆様との絆を大切に、米坂線の復活に向けて関係する皆さんと力を合わせながら取組みを加速させたいと考えております。また、JR東日本が示している4つの災害復旧後の運営パターンうち、廃線はないと考えておりますので、残りの3つの案のいずれかを選択することについては、知事（山形県）の考え方と歩調を合わせ進めていきたいと考えております。

② 今夏の熱中症対策について、昨夏以降のガイドライン見直しや学校現場での「ソラテナ Pro」、「カオカラ」の導入などの取組みの効果と課題について

今夏の熱中症対策については、様々な場面でご説明をしておりますので、対策の内容についてはご承知のこととは思いますが、昨夏以降の取り組みとして、ガイドラインの見直し及び「スポットクーラー」や高性能気象IoTセンサー「ソラテナ Pro」、熱中症リスク判定AIカメラ「カオカラ」の導入などを行ってまいりました。

はじめに、改訂した「米沢市小中学校熱中症対策ガイドライン」についてですが、熱中症警戒アラートや特別警戒アラート発令時の対応を明確にし、指定暑熱避難施設（クーリングシェルター）への避難方法や、熱中症対策の取り組みを効率的に確認できるチェックリストを追加しました。これにより、学

校活動における熱中症対応がより万全なものとなりました。

次に、スポットクーラーについてですが、昨年度中に中学校へ、今年度は小学校に導入を行い、7月から運用を開始しました。活動中に熱くなった体を冷やすことができるため、熱中症予防に非常に効果的であるとの報告を受けております。特に、運動中や運動後、暑い日中においては、その効果が顕著に現れています。

次に、「ソラテナ Pro」についてですが、観測した気象情報や暑さ指数を基に学校活動における熱中症対応を実施しています。このシステムにより、リアルタイムでデータを確認することができるため、今後の暑さ指数や天候の予測が容易になり、適切な判断が可能となりました。これまでの方法では測定時点の暑さ指数で行動を決定していましたが、「ソラテナ Pro」を活用することで、今後の推移を予測することが可能になり、教職員はより迅速かつ的確な判断を行っていると感じております。

なお、「ソラテナ Pro」については、今年度は実証試験による取り組みであり、運用を終了した後に得られたデータを基に、次年度における対策についてどのように活用していけるか検討してまいります。

次に、「カオカラ」については、中学校に14台導入し、生徒昇降口や体育館の入り口などに設置して運用をしています。この機器は、生徒が運動前後に熱中症リスクを自己認識し、水分補給や休憩を促す役割を果たしています。「カオカラ」により、生徒たちは自分の健康状態を客観的に把握できるようになり、特にリスクが高い場合には教職員へ相談することができる環境を整えることができました。

なお、「カオカラ」に関しても、今年度は実証試験の取り組みであり、次年度に向けて運用状況を検証する必要があると考えております。なお、先月に実施した、学校からの運用に関するヒアリングでは、①全校生が使用できる状態にしている、②部活動前後の使用で判定を必須としているため部活動前後には判定を受けるものという習慣がついている、③体育館使用後や昼休みの後下校前などが特に利用が多いがそれ以外にもそれぞれの状況に合わせて使用している、④生徒が自分の健康状態を客観的に把握できている、⑤生徒たちには測定時にオレンジや赤色になった場合には先生に申し出るように指導している、⑥保健室に体調不良で来室した生徒についてはカオカラを使用し判断の一助としている。などの回答がありました。

今後も引き続き、現場の声を反映させながら改善を図ってまいります。

今夏行なった熱中症対策に関しての課題については、新たに導入した機器が全国的にも導入事例が少ない状況での運用であったため、効果的な使用方法を開発メーカーに情報提供やアドバイスを頂きながら行ったことや、導入・準備期間が短かったことから学校等に周知をする時間が少なくなったため、学校において設置当初からすぐに使用が出来なかったことなどが挙げられます。

次年度においては、今年度の運用実績を踏まえ、効果的な運用について検討していく必要があると考えております。引き続き児童生徒の安全確保と円滑な学校活動の推進に努めてまいります。